

IRIDeS メディアフォーラム「巨大災害に備える！防災・減災対応を進化させる学際的研究とその役割—報道関係の皆様に向けて私たちにできること—」を東京にて開催しました（2015/10/1）

テーマ：防災・減災研究成果の社会発信
場所：東北大学 東京分室

10月1日（木）13:30～14:50、東北大学 東京分室にて、IRIDeS の最新の活動成果を関東の報道機関の方々へ発表するフォーラムを開催しました。IRIDeS は設立3年半となりましたが、地元東北ではメディアに頻繁に取り上げていただき、社会発信を進めています。今回のフォーラムの目的は、今後関東・全国メディアの方々とも連携を深め、全国へ発信して防災に貢献してゆくことです。

フォーラムは、伊藤潔 広報室長（災害医学研究部門 教授）の司会進行で行われました。まず、冒頭で今村文彦所長（災害リスク研究部門 教授）がIRIDeS の概要説明を行いました。今村所長は、IRIDeS の設立経緯、研究者数、ミッション、文理融合の実践的防災学等について説明しつつ、産・官・学・民連携、社会発信重視がIRIDeS の特長であり、今後、報道機関の方々とも更に連携を深めてゆきたいと述べました。

所長挨拶に続き、IRIDeS の最新の成果である「震災アーカイブ」、「震災メンタルケア」、「海外支援」、「災害統計グローバルセンター」に関する発表が行われました。まず柴山明寛准教授（情報管理・社会連携部門）が、「震災から5年目 アーカイブの挑戦」と題し、みちのく震録伝の概要および最近の様々な活動について述べました。続いてボレー セバスチャン助教（情報管理・社会連携部門）が、災害記憶と防災について発表しました。

次に、富田博秋教授（災害医学研究部門）が、「東日本大震災後のメンタルヘルスの実態と今後の『こころの防災』体制の整備」と題し、疫学調査に基づいた震災後のメンタルヘルスの実態、「こころの防災」体制の整備の現状・課題と今後の展望、災害ストレスと災害関連精神疾患の生物学的基盤解明と対処技術の向上等について説明を行い、また、精神医学の観点から、ネパール地震の現地調査報告も行いました。

続いて呉修一助教（災害リスク研究部門）が、「国際研究所としての国際連携・海外学術支援の取り組み」について発表し、IRIDeS が東北大学の強みを生かしつつ、防災分野での数少ない国際防災・減災を展開し、成果を出している旨を具体的に説明しました。

最後に丸谷浩明教授（災害統計グローバルセンター副センター長、人間・社会研究部門）が、「国連開発計画（UNDP）と協働で『災害統計グローバルセンター』を設置」と題し、発表を行いました。世界には、災害被害統計が未整備で、有効な防災政策が立てられない国が数多くあります。災害統計グローバルセンターは、各国の現地関連機関と強いパイプを持つUNDPと、多様な防災専門家が集まるIRIDeSが、互いの強みを生かして世界の災害統計を整備・運用し、防災能力向上に貢献する主旨で設立されました。この世界初のプロジェクトを、皆様と共に育てていきたい旨、丸谷教授は述べました。

当日は20名の報道関係者が来場され、発表後、IRIDeS 関係者に熱心な質問が寄せられました。今後も、IRIDeS は全国で報道機関の方々との連携を深め、全国で防災知見の発信を行ってゆく所存です。



会場の様子



今村文彦所長

文責：中鉢奈津子（広報室）

写真：鈴木通江（広報室）